

京都市立洛央小学校で祇園祭「日和神楽（ひよりかぐら）」のお迎えちょうちん作り

・令和4年6月21日（火）京都市立洛央小学校（6年生4組）でお迎えちょうちんの絵画指導

参加者：内藤英治（作家、祇園祭児童画実行委員会代表）、三原サダ子（染色家）、北島桂子（染色家）

川口凱正（京都デザイン協会）、田中聡（京都デザイン協会）、山岡敏和（京都デザイン協会）、ながたみどり（京都デザイン協会）

古川加津夫（京都デザイン協会、祇園祭児童画展実行委員） 以上8名



日和神楽は祇園祭の山鉾巡行の前夜に行われる好天を祈る神事。各山鉾の関係者が山車を伴い囃子（はやし）を奉納する。この神事の通り道の家々は「お迎えちょうちん」をともして歓迎した。

松原通周辺の7つの旧学区の有志で作る松原通界わい活性化プロジェクト委員会では、1956（昭和31）年から松原通を通らない現行の巡行ルートの見直しを求めている。山鉾そのものが巡行するわけではない日和神楽で松原通を通ってもらうよう近隣の山鉾町に依頼。少しずつその数を増やし、2014年には綾傘鉾が正式に因幡業師（下京区因幡堂町）で棒振り神事を奉納するなど活動の成果が実を結んでいる。

その松原通界活性化活動プロジェクト委員会は、こうした活動を紹介するだけでなく洛央小学校の4年生児童と松原通を歩き、松原寺町の北西の角が斜めにすることで山鉾の辻回し（方向転換）がしやすいようになっているなど、現代にも残る巡行ルートの痕跡をたどる街歩きを実施。児童に街や祭りの歴史を伝えている。

21時から、四条通→お旅所→宮川町→松原通→因幡業師さん、休憩込みで2時間15分のコース。